

寺山自然教育研究施設周辺不法投棄ゴミ一掃作戦のボランティア作業

新 地 富 一

(教育学部実習地)

寺山周辺のゴミを何とかしようと教育学部寺山自然教育研究施設で細々とゴミ拾い作業をしていたが大量のゴミの処理に取ってもとつてもでてくるゴミに困り果てているところに、同じ寺山周辺のゴミの問題に気づいていた（日本を美しくする会寺山周辺のゴミを何とかしようと教育学部寺山自然教育研究施設で細々とゴミ拾い作業）と偶然にも遭遇できて鹿児島大学教育学部、日本を美しくする会が中心になり事業を進めた。そこで、昨年教育学部で行った第一回寺山自然教育研究施設不法投棄ゴミ一掃作戦について報告致します。主旨として寺山自然遊歩道の不法投棄ゴミを一掃し、環境保全についての市民への啓発を目的とした。

共催団体は、鹿児島大学教育学部、(社)鹿児島法人会吉野西支部、(社)鹿児島法人会吉野南支部、吉野地区住民、森林ボランティア、日本を美しくする会、鹿児島市掃除に学ぶ会で参加予定人数は200名でしたが当日は360名という多くの参加者となった。

実施日は、平成17年5月15日(日)、当日は、8時から11時30分までゴミ一掃作業を行った。寺山自然遊歩道は、全長約2.5キロメートルのコースであり、1班から6班までの班割りをを行った。

役割は、実行委員長、副実行委員長、総務、受付、救護、昼食準備係、前日の準備、ガードマン、ビデオ担当、ボランティア保険担当等であった。

予想される事故の対応策、病気作業中の負傷、交通事故、その他、マスコミ関係、行事案内、取材依頼等をあらかじめ想定し段取りを整えた。

開会式前に、班編成、作業場所、作業内容、作業段取りを確認後、開会式を行い作業を始めた。

ゴミは2トン車で11台分の量だった。ゴミの内容は、山中に船も捨ててあった。車、冷蔵庫、家具、業者の捨てたものもあった。古タイヤ、単車、バッテリー、家電、洗濯機、クーラー、テレビ、空きカン、ペットボトルなどであった、燃えるごみは、鹿児島市のゴミ収集車が来て5台分の量を、早々に運んで行った。

閉会式の時に各班より感想発表をしてもらった。なお当日は鹿児島大学教育学部自然教育研究施設を開放した。また、当日に限り、風力発電の風車のある牟礼岡に車で登れることが島津興業より許可されお互いの労もねぎらうこともできた。空気はとってもおいしかった。

その後、半年たった現在でも、ゴミが捨てられ続けている。自然環境を守るのは県民一人ひとりの意識の高揚、自覚以外にないが、環境美化に努める等の継続した取り組みが、その力となっていくものと考えている。不法投棄ゴミ一掃作戦は今後も続けていく考えでいる。何年か後には不法投棄はなくなるのではと期待しながら……。

ゴミ一掃作戦写真

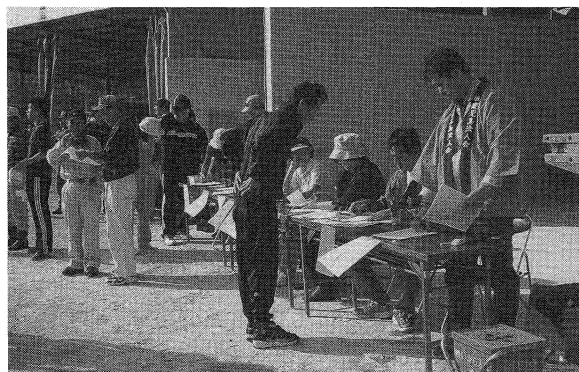


図1 受付

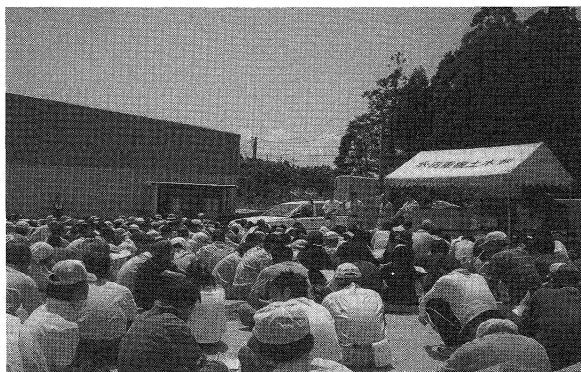


図2 開会式

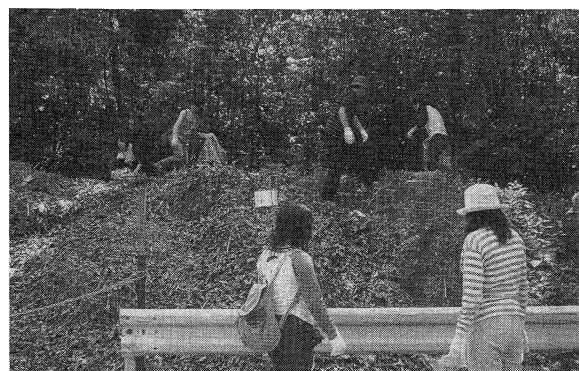


図3 ゴミ作業



図4 ゴミ作業



図5 ゴミ作業



図6 ゴミ作戦